

今週の御言葉 「恵みを数えて」

(ヨハネによる福音書 21 章 1 節～14 節)

「シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった」(21:11)。

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○キリスト教は希望の宗教です。イエス様の十字架上の死は確かに悲しいことです。でも、三日後にイエス様は甦らされました。そこからキリスト教は始まったのです。人の常識では、命は死によって飲み込まれるのが常です。しかしキリスト教では、逆に死が命に飲み込まれてしまうのです。「死よ、お前の勝利はどこにあるか」と言うのです。イエス様の復活は、私たちの人生の価値観まで変えてしまうほどの大きな出来事なのです。

○死が無だとすれば、命は有です。無とは一切が意味を失うことです。反対に、有とは一切が意味を持つことです。弟子たちは夜どおし働き、何の収穫もなかった。空の空、人生これ無意味、働き通した日々が空しく終わる、聖書の言う死の世界です。しかし復活のキリストが、私たちの人生に介入し、「舟の右側に網をおろしなさい」と言われます。右側とは、神様の側に立ち、従うことです。私たちはそこで何が起こったかを証しする主の証人です。西欧では右側は幸運のしるしだそうです。人生における幸運、幸いとは何か。「労苦は無駄ではない。きっと何か取れるはず」と約束してくださる方に出会うこと、それが何よりの幸いではないでしょうか。

○イエス・キリストは復活の初穂です。それは人が信じる、信じないに関わらず、神様の真実です。そして人がそれを信じるとは、そこに神様の恵みを認め、意味ある命の世界への招きを自分に受け入れることです。弟子たちはイエス様の言葉に素直に従いました。そうしたら、引き上げることの出来ないほどのおびただしい魚が取れ、喜びが満ち溢れた、と聖書は約束しています。

○とれた魚の数は153匹でした。この数は当時の世界の国々を示しているそうです。全世界の人々に、このよき知らせを述べ伝えよ、というご命令なのかも知れません。また、こうも考えられます。ペテロが自分の人生をふり返ってみたら、今まで無意味だと思っていたことの中に、神様の恵みが153個もあった、と。「数えてみよう、主の恵み」と昔の讃美歌にあります。毎日生かされていることや、礼拝に出ることができるようになるのも、思えば当たり前のことではなく、主の守りと導きがあつてのことではないのでしょうか。153という数字は、私にはペテロが復活の主に出会って、ひとつ、またひとつと、与えられた恵みを数える生き方を始めていった、その象徴のような気がするのです。